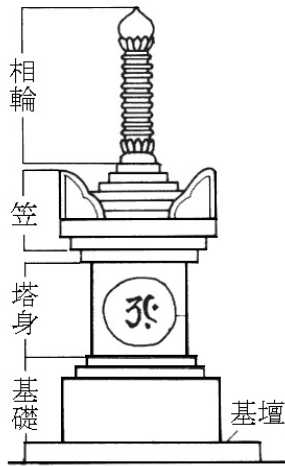


豪潮の宝篋印塔

委員 中村 仁美

豪潮建立宝篋印塔 (西巖殿寺・松野家・滝水) 3基
(市指定有形文化財)

宝篋印塔は、内部に「一切如来心秘密全身舍利 宝篋印陀羅尼經(略して「宝篋印陀羅尼經」)というお経を納めた塔であることから、こう呼ばれています。宝篋印陀羅尼經には、一切の如来(仏様)の功德を念じこめた陀羅尼(呪文)が記されています。これを納めた塔を礼拝することにより、罪が消滅し、生きている間は災害から逃れ、死後は極楽に生まれ変わると考えられています。



宝篋印塔の各部と名称



松野家(黒川) 文化12年(1815年) 建立 高さ約2m



波野大字滝水 文化2年建立 高さ約2m



西巖殿寺(黒川)文化2年(1805年) 建立 高さ約6m
※建立の際、滞在したお礼に自筆の絵画が送られています

54歳になると、全国に8万4千基の宝篋印塔の建立を祈願し、2千基以上を建立しました。これだけの大事業を行うことができたのは、豪潮の法力とその帰依者・支持者の層の厚さを伺うことができます。

晩年は、尾張藩(現愛知県)の徳川斉朝に厚い待遇で重用され、87歳(天保6年(1835年))で名古屋にて没しました。また、豪潮の形にとらわれないで力強い書風は、現在も高く評価されています。

日本での宝篋印塔の信仰は古く、平安時代までさかのぼります。鎌倉時代になると、石造の宝篋印塔が作られるようになりませんが、本来の目的とは違って、公家や武士のお墓、あるいは供養するための塔として建立されることが多くなります。

さて、阿蘇市には、市の有形文化財に指定されている宝篋印塔が全部で3基あり、いずれも「豪潮」が建てたものです。豪潮は玉名の出身で、その徳は遠近に伝わる高僧であり、加えて多数の書画も残しています。

寛延2年(1748年)に専光寺に生まれ、7歳で出家。16歳で比叡山に登り修行。20歳のとき、名を豪潮と改めました。28歳の時に帰郷し、寿福寺の住職となりました。その頃から高僧として知られ、宮中や各地に招かれて加持祈禱を行い、諸大名からは帰依を受けました。

寛延2年(1748年)に専光寺に生まれ、7歳で出家。16歳で比叡山に登り修行。20歳のとき、名を豪潮と改めました。28歳の時に帰郷し、寿福寺の住職となりました。その頃から高僧として知られ、宮中や各地に招かれて加持祈禱を行い、諸大名からは帰依を受けました。